

地域医療連携広報誌

つながる医療

特集インタビュー

千田 博也 医師

せんだ ひろや

総合大雄会病院
整形外科 臨床副院長 兼
総合手術科 診療部長

【主な資格】

- ・日本整形外科学会専門医
- ・日本手外科学会手外科専門医
- ・医学博士



100歳まで元気に動き回れる体づくりの
お手伝いをさせていただきます。

整形外科 臨床副院長 兼 総合手術科 診療部長

千田 博也

千田先生は、どんな治療に携わっていますか？

整形外科の中でも「手外科」を専門としています。普段あまり意識されることはないかもしれませんが、私たちが日常生活を送るうえで、手の果たす役割は想像以上に大きなものです。物を持つ、握るといった基本的な動作だけでなく、握手やジャンケンなどのコミュニケーション、さらにはピースサインやサムズアップといった感情表現にも、私たちは無意識に手を使っています。また、手指は閉じる、開く、ねじる、つまむなど、非常に繊細で複雑な動きをします。その動きを可能にする人体の構造の精巧さは、生物の進化という偶然の産物とは考えにくく、まるで神が工夫を凝らして作り上げたかのように思えます。

このように、人が人らしく生きていくために不可欠な「手」を専門に扱うことに、大きなやりがいと誇りを持って日々診療にあたっています。



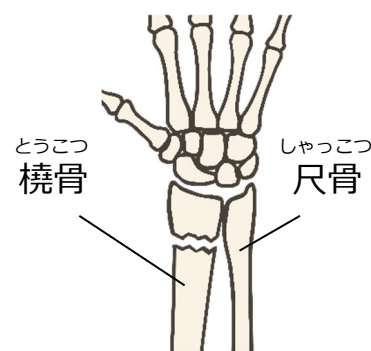
今までで印象に残っている症例を教えてください。

切断された身体の一部を、手術用顕微鏡を用いて血管や神経などの組織を再縫合し、修復する「再接着術」という手術があります。対象となるのは多くの場合、指の切断ですが、過去に手のひらを切断された患者さんの再接着術を担当したことがあります。何度か修正や追加の手術を行った結果、その方は回復し、趣味のゴルフでスコア100を切ることができたと喜んでくださいました。なかなか100を切ることができない私は、その喜びを分かち合うと同時に、少し羨ましいような複雑な気持ちになったことを覚えています。



橈骨遠位端骨折について教えてください。

前腕には2本の骨があり、そのうちの橈骨が手首の部分
えんいたん（遠位端：体の中心から遠い端）で折れるのが「橈骨遠
いたんこっせつ位端骨折」です。この骨折は、高齢の方が転倒し、手をついて受傷するケースが多く、発生率は加齢とともに増加します。特に70歳以上では若年層に比べ、男性で約2倍、女性では約17.7倍となり、80歳でピークを迎えます。



変形が少ない場合は、前腕から手の甲、手のひらまでギプスなどで固定します。通常、約1カ月で骨折部が動かなくなり、ギプスを外せますが、元の骨の強度に回復するまでにはさらに約2カ月が必要です。一方、一定以上の変形がある場合には手術を推奨します。現在はプレートとスクリューで骨折部を固定する方法が主流で、骨の状態や折れ方によりますが、かなり強固に固定できるため、多くの方が術後2週間程で日常生活での動作程度なら手を使えるようになります。手術治療が行われているのは全体



＜プレート固定術＞

の20～30%といわれていますが、その割合は年々増加傾向にあります。かつては許容範囲とされていた程度の変形に対しても、より良い治療結果を求めて手術が選択される場合や、これまで手術が困難だった骨折にも対応できるよう、手術器具や技術が進歩していることも大きな要因です。さらに、近年は骨粗鬆症が進行した高齢者の骨折が増えており、明らかに許容範囲を超えるケースが多くなっていることも、手術が増えている理由の一つです。



専門医からのワンポイントアドバイス

最後にぜひお伝えしたいのは、骨折の予防についてです。高齢者の骨折の多くは屋内での転倒が原因であり、特に自宅内での受傷が大半を占めます。足元の段差をなくすことや、床や廊下を整理整頓することを改めて見直していただくと、より安心して生活できるでしょう。



先生の事をもっと知りたい！

● 医師を志した理由を教えてください。

父親が内科医だった影響かと思います。小学校の卒業文集の「将来になりたい職業」の欄には、大学教授と書いていました。

● なぜ整形外科を専攻したか教えてください。

母が大工の娘だった影響かと思います。子供のころからハンマーやネジなどを扱うのが好きで、家具の組み立てや自転車の整備などを楽しんでいました。

● 診察の際や医師として大切にしている事を教えてください。

整形外科は、外科や内科のように生死に関わる治療を行う機会は多くありません。しかし、「人生100年時代」といわれる現代において、手足や首、腰などの運動器に障害を抱えたまま日々を過ごすことは、大きな苦痛となります。

だからこそ、私たちの存在意義があると考えています。私たちが行う手術や治療は、患者さんのその後の生活や人生を大きく左右する重要なものです。その責任を常に肝に銘じ、最善を尽くすことを心がけています。

● 休みの日の過ごし方を教えてください。

屋外で過ごすことが好きで、ゴルフは気分転換に最適なスポーツだと思います。上手ではないのでむしろスコアにこだわらず楽しめますが、やはりもっと上達したいです。冬はスキーを楽しみにしており、いつかヨーロッパアルプスに行きたいと思っています。



詳しくは、地域医療連携室までお問い合わせください

